



『東北圏だより』

ILC (国際リニアコライダー) の東北誘致

社団法人 東北経済連合会

国際リニアコライダーは、ILC (インターナショナル・リニア・コライダー) と呼ばれるもので、宇宙誕生の謎を解き明かすために行う素粒子実験装置です。

世界でただ一つ作られるこの施設の候補地である北上山地は、硬い花崗岩で出来た極めて安定した岩盤が地下に広がっており、以前から、国際リニアコライダーの立地に有力な候補地とされてきております。

東経連では、この国際プロジェクトを東北地域で進めることは、科学や技術の進歩、地域産業の振興や科学技術立国としての発展に非常に大きな意義があると考え、東北の産学官31団体で、東北加速器基礎科学研究会を平成21年に立ち上げました。その後、誘致活動を推進してきており、2012年7月にはILCの東北実現に向け、研究会組織の強化を図り積極的な推進活動を行っていかため、「東北ILC推進協議会」へ改組し活動を強化してまいりました。

ILCの実験装置類は、地下100mにある岩盤を31kmくり抜いてトンネルを作り、その中に収められます。また、地上部分には国際研究所が設置され、常時数千人規模の国内外の研究者や技術者が駐在し、国際的な研究拠点が形成されることとなります。そして、この世界最先端の研究施設は、先端技術の集合体であるため、産業技術への大きな波及効果が期待されるとともに、ILC周辺は先端産業が集積し、イノベーションを創出する可能性を秘めた地域に変貌することが考えられます。このように、ILC計画は、東北を世界の知の拠点にかえ、国際的な交流が活発な地域に変貌させるなど、将来に大きな可能性を与えてくれる、まさに東北復興の象徴となるプロジェクトであり、この実現に向け、東北が一丸となって積極的に進めていくことが必要です。



VISIT JAPAN東北「KIZUNA」2012年度事業

東北運輸局

観光庁では、平成18年に成立した観光立国推進基本法及びこれを受けて定められた観光立国推進基本計画に基づき、訪日外国人旅行者数を将来に3,000万人にすることを目標に、ビジット・ジャパン事業を実施しております。これは、現在、日本人海外旅行者が約1,699万人(平成23年)であるのに対して、我が国を訪れる外国人旅行者は、約621万人(平成23年)に過ぎないことから、その格差をできる限り早期に是正し国際相互理解増進と経済の活性化に寄与しようとするものです。

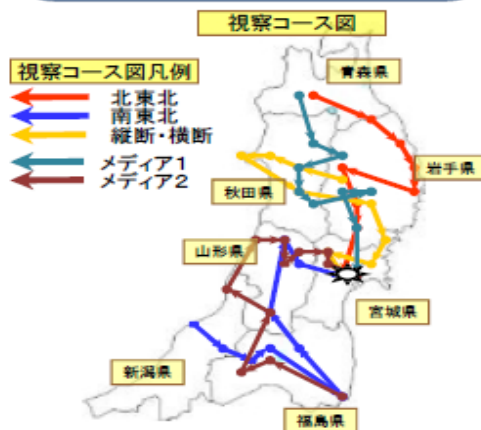
東日本大震災の発生から1年半以上が経過し、東北地方では観光客受入に支障がない観光地が数多く存在します。また、被災地域においても観光客誘致に向けた取組が徐々に始めているところです。

今般、震災復興に向けて東北が一丸となる「KIZUNA」(絆)をテーマに海外の旅行エージェント・メディアを招請し、東北の観光スポットの視察・体験を通じて復興状況や安全性を認識していただき、旅行商品の造成及び正確な情報発信をしていただくことで今後の着実な誘客に繋げることを目的に実施しております。

- ・主催者：東北運輸局 東北観光推進機構
- ・日程：旅行エージェント対象(3コース)
平成24年9月24日(月)～9月29日(土)
メディア対象(2コース)
平成24年10月14日(日)～10月20日(土)
- ・場所：東北六県及び新潟県の観光資源等
- ・プログラム：観光資源視察等
商談会、交流会(仙台市、花巻市、男鹿市、猪苗代町)

<VISIT JAPAN東北「KIZUNA」2012事業>

- 主催：東北運輸局
東北観光推進機構
- 期間：2012年9月24日～29日
10月14日～20日
- 参加者：海外から旅行エージェント及びメディア40名程度
- 取材地：5コースで震災後の東北の観光スポット等を視察・取材



- ・参加招聘先：(旅行エージェント25名) 韓国、台湾、中国、香港、タイ、マレーシア
(メディア15名) 韓国、台湾、中国、香港、マレーシア、アメリカ、フランス

【視察ツアー】



弘前市リンゴ公園



会津若松市鶴ヶ城



仙台会場

【商談会】

第3回東北圏広域地方計画変更に関する有識者懇談会を開催しました

東北圏広域地方計画協議会では、東日本大震災の発生を受けて東北圏広域地方計画の変更を行うべく鋭意作業を進めており、去る9月4日(火)二日町東急ビル会議室において「第3回東北圏広域地方計画変更に関する有識者懇談会」を6名の委員の出席のもと開催いたしました。

まず、事務局より第2回有識者懇談会で各委員から出された意見の論点整理について説明を行い、次に「検証・点検結果により明らかになった12の課題」と第1回、第2回有識者懇談会の論点整理との関係、現行計画から変更計画への流れについての説明のあと、柴田座長の進行により議事が進められました。

各委員からは

- ・非常時を意識した改定であることは分かるが、平時があって非常時があるということ意識した計画にすることが必要。
- ・東北のこれからの10年がどのようにあるべきかについて見えてこない。東北はどう生きていくのか、東北らしさが書ききかれていない。
- ・物流を考えた場合、遠距離になるほど海上輸送の果たす役割が大きい。「多様な輸送モード間の連携強化」の中で海上物流について打ち出す必要がある。
- ・道路の避難場所としての活用や、防波堤、防潮堤と組み合わせるなど、多重防御というキーワードが重要。
- ・「農林水産資源をはじめとする様々な地域資源の回復と地域産業の経営強化」については、単純に回復、経営強化だけでなく、新しい産業を東北から発信するといったことを書き込む必要がある。

等、様々な意見が出されました。

次回の有識者懇談会では、今回の議論を踏まえた計画変更の素案たたき台を提示し議論を深めていく予定としております。



編集後記

大変長く暑かった季節もやっと過ぎ去り、過ごしやすい今日この頃となりました。東北圏広域地方計画の変更作業は素案の意見提案募集に入る段階までもう一息となりました。今後は幹事会、第4回有識者懇談会の開催を予定しておりますので、ご出席をよろしくお願ひします。最後に季節の変わり目ですので、体調を崩さないようご留意下さいませ。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp